(ｱ) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。

(ｲ) 生活に身近なことわざなどを知り，使うことにより様々な表現に親しむこと。

(ｳ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。

㋐　点画の書き方や文字の形に注意しながら，筆順に従って丁寧に書くこと。

㋑　漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書くこと。

(ｴ) 幅広く読書に親しみ，本にはいろいろな種類があることを知ること。

〔思考力，判断力，表現力等〕

A　聞くこと・話すこと

聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身近な人の話や放送などを聞きながら，聞いたことを簡単に書き留めたり，分からないときは聞き返したりして，内容の大体を捉えること。

イ　相手や目的に応じて，自分の伝えたいことを明確にすること。

ウ　見聞きしたことや経験したこと，自分の意見やその理由について，内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。

エ　相手に伝わるように発音や声の大きさ，速さに気を付けて話したり，必要な話し方を工夫したりすること。

オ　物事を決めるために，簡単な役割や進め方に沿って話し合い，考えをまとめること。

B　書くこと

書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　相手や目的を意識して，見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び，伝えたいことを明確にすること。

イ　書く内容の中心を決め，自分の考えと理由などとの関係を明確にして，文章の構成を考えること。

ウ　事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。

エ　文章を読み返す習慣を身に付け，間違いを正したり，語と語との続き方を確かめたりすること。

オ　文章に対する感想を伝え合い，内容や表現のよいところを見付けること。

C　読むこと

読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　様々な読み物を読み，情景や場面の様子，登場人物の心情などを想像すること。

イ　語と語や文と文との関係を基に，出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。

ウ　日常生活や社会生活，職業生活に必要な語句，文章，表示などの意味を読み取り，行動すること。

エ　中心となる語句や文を明確にしながら読むこと。

オ　読んで感じたことや分かったことを伝え合い，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

3　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを身に付け自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

イ　２の各段階の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については，〔思考力，判断力，表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とすること。

ウ　２の各段階の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A聞くこと・話すこと」に関する指導については，生活に必要な話し言葉を身に付け，活用できるよう指導すること。

エ　２の各段階の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については，筆記用具を用いる技能の指導に偏ることなく，文章を書く場面を設けるよう工夫すること。

第三種郵便物認可　明治二十五年三月三十一日